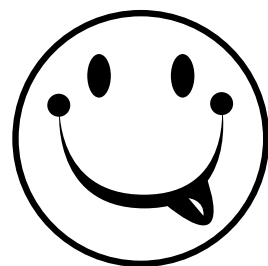


「全少」を日本一研究する指導者による提案

ZENSHOに 挑戦しよう！



養正館館長・渡辺貴斗

第1回

叱れば良いの？褒めれば良いの？

◆「負けたら意味ないんだよ！だから、お前らダメなんだ！」

昨年の《全日本少年少女武道錬成大会》で養正館チームが形で勝ち進み、組手のステージまで残ることができました。ウキウキ、ドキドキする中、準々決勝の組手コートに向かう途中、すでに組手試合で敗れたある道場の監督が、選手たちに人間性を否定するような罵声を浴びせている姿を見ました。それが見出しに掲げた言葉です。

その道場の子どもたちは委縮し、うなだれていましたが、指導者はお構いなしにものすごい剣幕で怒鳴りつけていました。養正館の子どもたちは、それをジューッと見て固まっていたので、「見るな！行こう、行こう！」と声掛けし、コートに歩を進ませました。

試合で負けて、怒鳴りつけるのは、子どものためではなく、指導者が不満をぶつけているだけです。指導者との約束事を試合中に守らなかったことを叱っていたのかもしれませんが、このような声掛けでは子どもの成長は見込めません。

仮に、その場で、子どもたちが「分かりました！」と言っても、それは本音ではなく、指導者に「言わせられた」のです。

このあたりの勉強として大変学ばせていただいた書籍があります。『桑田真澄の常識を疑え！』桑田真澄著（主婦の友社刊）です。ぜひ一読されることをお勧めします。

◆本当に子どものためでしょうか？

言葉の暴力を受けている子は、何かをやるときに、まず指導者の顔色を見ます。どうすれば叱られないかに全神経を集中していますので、「自分で考えて動く」ことができず、指示待ち人間になっていきます。そのくせ、指導者は「自分で考えて動け！」と無理なことを言い、子どもは何もできず固まってしまう。一部を除き、叱るとは大人の思い通りに子どもたちをコントロールすることです。

以前、娘の幼稚園のお遊戯を見学したことがあるのですが、突然、頑張り出す子がいました。周りを見渡すとお母さんが遠くで腕組みしているのを見つけ、「なるほど」と思いました。

人の道にはずれたとき（悪意のある嘘をつく・他人を傷つける等々）は、全力で叱らなくてはなりません。それが、それ以外の叱るは、大人（お母さんや指導者）が子どもにストレスをぶつけて思い通りに子どもを動かそうとしていることがほとんどです。つまり、本当の意味で「叱る」のではなく、怒っているだけです。

指導者であれば、「勝つ喜びを経験させたい」と言って、実は指導者が勝ちたいだけであったり、お母さんであれば「子どもの将来のため、挨拶・返事できるようにさせたい」と言って、本当は「しつけのできないダメお母さん」と思われたくないからだったりします。

本当に子どものことを考えた声掛けをしなくては、子ども自ら変わっていくことはなく、怖い大人の前だけでの「良い子」を演じることになります。

◆褒めているつもりが脅しになっていませんか

最近「褒める」指導が良いと言われています。大方賛成しますが、「早く靴下を履く子は偉い子ね。どんどん準備する子は大好き！」などお母さんの思い通りに動かすために褒めるやり方は注意が必要です。裏を返せば「履くのが遅い子はダメな子。準備が遅い子は嫌い」となり、子どもの心の潜在的な部分で「脅し」になっています。褒めるも、叱ると同じで、大人が子どもを思い通りに操縦しようとしています。試合の勝敗などの結果だけに固執した褒め方、叱り方をしていると、結果だけが良ければ良いと子どもは考えるようになります。

次のような心理学の実験があります。2つのグループに同じテストを解かせ、1つのグループは点数を褒めます。もう1つのグループは難しい問題にチャレンジしたことを評価しました。次に、「易しい問題と、難しい問題のどちらをやりたい？」と聞くと、前者は易しい問題を選び、後者は難しい問題

を選んだとのこと。点数を褒められた子は易しい問題で高い点数をとってもう一度褒められようとし、頑張ったことを評価された子は点数が低くなることなど恐れず自ら難しい問題にチャレンジしていったのです。

結果だけを褒めたり叱るのではなく、頑張ってきた経緯や過程をしっかり評価してあげることで、結果の善し悪しに臆せず、次も新しいことに挑戦する「生きる力」が育まれるのです。

PROFILE

■渡辺真斗 TAKATO WATANABE

1968年4月20日生まれ。
7歳から父である館長から厳しく空手の手ほどきを受ける。東大大学院博士号を取得し、東大に研究者として勤務。後、先代が病氣となったことから一大決心をして、養正館を継ぐ。持ち前の研究魂から道場経営でも創意工夫の結果、一道場で300名と大躍進。

日本空手道鴻志会空手道場養正館
静岡県沼津市本田町11-12



One Point Advice

「全少大会」出場の ワンポイント・アドバイス

ほんの少しの工夫が、勝敗を左右することだってあります。今回は女子形選手のための「髪型」の作り方です。

自宅（ホテル）で



①肩にタオルを掛け、寝癖直しをスプレー。



②前髪が短い場合は、まとめて細いゴムでしばる。



③前髪を入れて太いゴムでポニーテールを作る。

会場にて



④ジェルを付けてポニーテールを三つ編みして細いゴムでしばる。



⑤三つ編みをお団子になるようにきつく巻き付ける。



⑥お団子が崩れないようにゴムをぐるぐる巻いて、全体にジェルを付けたら完成！（後れ毛までジェルで固めます）



⑦上着は、脱ぐときに髪型が崩れないように、前開きのものが必須。

▲モデルは、養正館の江藤凧沙選手、この春から4年生。【全少戦績（女子形）】小1／3位、小2／1位、小3／5位